

日伯新聞

本紙定期費半額割引
發行所 日伯社
三七五
ニ一大八三

移 民 領 事

▲拓殖省の出来るのは最早確定のことと云つてよい。そんなものを捨へることの善惡は別と之が出来る差當り悦ぶ者はある。

▲拓殖省の出来るのは最早確定のことと云つてよい。そんなものを捨へることの善惡は別と之が出来る差當り悦ぶ者はある。

▲そこで二人の主人を持つこと

▲モウ既にそろへ其邊ではお

生じてお

者をチラホラある。來年の今頃

ひない。自身は外務省の飯を食は

その芝居を實際に見られる譯

つて育つて來てる、立身出世さ

た

▲さうする。いつでも外務省

の仕事を先にし、拓殖省のはま

あ後廻しと云ふのは誰も人情

あまり五月蠅くなると拓殖省の

て依然として委員會において調

査中である、傳ふる所によれば

され

た

● 義 報 ●

官吏増俸案は

万年調査に終るか

▲そこで移民政務がダレて來や

うと云ふものだ、それだけなら

まだよいが、拓殖省から派遣の

移民官と云ふ奴が見習として同

じ所に座る、そしてそれが事實

だけ切りめる事に腐心する。

社会主義經濟學者は一

個人の人間であり生産に參與する

だけ切りめる事に腐心する。

ソロ線の旅

四 腐嘴生 何處に行つても何かその地に
なくてならぬ產物がある様に此
アバレーと呼ぶ町附近にも日用品に缺げなし棉と云ふ產物がある。そして其はドラ線イビチナガ地方と並び吾が配州に於ける其主產地として古くから誰一人知らぬものは無かつたとか。それが爲、自然此の町の發達も古くから此處に集來りし多數の棉作農業者の入植に始り、多くの商人共はそれ等栽培業者の賜を得、工業家は此處かしことその粗生産精撰工場建設に威勢を張上げ、猫・杓子も自動車の購入と娘の皇柱を撫上げ、各銀行の支店は白蟻のトオレの如く突建つと云ふ調子にアバレーの發達は實に棉の生産に外ならぬものだ。

數年前此地に好景氣の見舞はれし當時はタケが知れた一アローベの實棉が大枚二十六七斤もしたと云ふのだから驚くの外はない、何んな細煙の窓にも鳥渡働けばコントスのお札が参込むもの。

それで當時の人達は誰しも余所目で視てる譯に行かぬが道理サアサア！爺よ婆よとコチャに葵屑を蹴り、カフエザールにラヌテララを投げ棄て馬骨バガブンドさへ安閑として居れず、鍼をかついでは棉の禱讀にと出掛ねばならなかつたと云ふ。

からくなつたらお百姓の鼻息が荒くなるのも道理だ下手に側に寄附けっこないは當然だ、濡れ手に粟を搊む様なものだから無理もあるまいがそれにつけて困つたのは只女だそうな、お百姓様の妻君にも一層勿体がかかる。すぐ様腹巻の取替や金歯をわたりたくなる、向山のカボクロの燒だつて絹の靴下でなければ品に缺げなし棉と云ふ產物がある。アバレーと呼ぶ町附近にも日用品に缺げなし棉と云ふ產物がある。そして其はドラ線イビチナガ地方と並び吾が配州に於ける其主產地として古くから誰一人知らぬものは無かつたとか。

なパリッカの様な娘の結婚も棉を離れて成立した例がないとか。一般的にではあるまいが聞いた話によるところ、娘の父親は何時も媒介人の来る度にバランナをして應待し娘と棉の重量の比較研究が第一に始まるとか、女ひでのアトロムニシバルがいることは全々伊太利ロシャのグランデオラレである。私が始めてこよなく舶来品で余りブルジョアすぎた頃ルイデビアンデルロが芝は

よりは余程軽かつた事がシカと
領れるだらう
此んな詰らん事に余り力を入
れると何だシウメぢやないかな
ゴトテツもない事を騒がれても
困るからいゝ加減にして置くが
然しそんなに悲觀するまではな
い。最近の統計に依ると此の地
球上に存する全人類は總じて十
六億千九百七十六萬あるそうだ
假りにその半數が女なりと見て
(誰も妻は二人までもとうと思
ふまいから) その内只一人だけ
を求めるのだものクヨーーする
ことはないもつと大きくなれ。
そして君は余りに元氣がないが
本當から云へばそれは可愛して
いた女だもの、その戀人が今リオ
ノーボの河上に愛の殿堂を築い
てその日／＼を幸福に暮して居
るなら…その男は誰にしろ君の
戀人は戀人だ、その戀人が幸福
居を打つて居たー私は太きな廣
告を見て瞬間之は果して例の日
本で有名になつた未來派の晚將
ビランデルロ其人かだらうかと
怪んだ。グラジルとは未來派は
元より未だ藝術そのものを要求
する眞卒な要求が乃至は準備が
一般にあるとは思へない、して
見るどビランデルロの渡伯はバ
リの流行の鶏呑的輸入よりまだ
傍一時代物ではないか、私のその
友人は一代の佛國名優ナルベル
ナールがリオで上演して觀衆の
見嘗違の拍手一つまり藝術眼の
低級さーに愛想もこそもつきて
絶望的な呪咀をグラジル人に棄
がりつして一君達、その言葉を
きまたいのか、グラジルを退い
たと云ふエピソードをきかして
日本のやうな藝術が生れないの
であらう！北米は植民地だつた
が建國百年既に現在の有様では
うな更に北米のやうな、更に亦
日本がやうな藝術が生れないの
ないか！私は日本に居た頃北米

らう祝してやれ祝してやれ、何やらの新聞に書き立てたり娘の親をうらんだりは余りに男氣がない事ぢやろ。ベンが横道に走つたが棉は彼等にとつての生命であるのは確かだ、其は結婚にばかりではない凡てに渡つてある。こうしか歴史のある棉作地を筆者は渡伯後今度で三回も訪れた、何時行つて見てもボア・ビスターの二〇ポントよりは興味がある。以下クリストの許可を得て尙書續けることにする。

プランタ機は多年研究を
在亦材料は特に良品にて
る様完全に出来てをりま
御使用の程を願ひます
金參 拾糸
ア線五白レース 他線壹糸
ステ線ベンナ驛 郵函 七十五
右兄弟鐵工場專門部
JISHI - Caixa, 75
A NOROESTE

スチクタシオル・ラグラン
S. Paulo
番 口 二 三 五〇 て 御 出 が す 製 加

水戸黄門

全國漫遊記

渡邊迷渡

にて如何ほどなりともいとだけ宿錢を取りなされ、何うぢや作
市さんお前さんからは一文も禮
を貰はんから安心して取りに行
きなされ

作「へエどうも恐れ入りますそ

の儀ならば是非ともその書付の

マジナイを戴いて受取りに行つ

から御書付であると云ふこと

ますそれでは遠慮なく戴て歸り

ます

「参ります」と云ふ工合でそれ

を知りましたのでアーノーと震

へ出しました。側に見てゐる作

市さん名主は「こりや妙ださうし

ラナイ屋の先生を能く存じてゐ

るのか」

作「アーノーと震はマジナイ

が利ひたやつた」と思つて居り

ころか至つて私とは御懇意に致

して居ります。もう私がいつも

又「誠に何うも結構なオーナー

作「へエへエ知つて居りますぞ

ますと

又「誠に何うも結構なオーナー

作「へエへエ知つて居りますぞ

ますと</div